添付書類2

実務経験のある教員等による授業科目のシラバス

科目区分	専門分野	授業科目	基礎看護学概論
講師名	藤井光輝	開講年次	1 年次 1 学期
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	実務経験	有 病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	①「人間」「健康」「環境」「生活」などの看護を定義する構成要素 ②保健統計 ③保健師助産師看護師法と関連法 ④看護倫理 ⑤看護理論家の考え ⑥他職種との連携 ⑦看護の歴史 の視点について、講義やグループワーク、全体討議を行い、自らの考えを述べる機会が多い授業である。		

目的：看護とは何かについて学ぶ
目標：1.看護の概念、看護の役割と機能について理解する
2.看護の対象を理解する
3.健康の定義、健康政策に基づく健康増進へのかかわりを理解する
4.看護の歴史から看護の成立と発展を学び、今後の課題について理解する
5.看護サービス提供の場及び仕組みを理解する
6.看護に対する関心を高める

回	授 業 内 容
1	看護を定義する構成要素を理解する— 「環境」とは 「人間」とは
2	看護を定義する構成要素を理解する— 「健康」とは 「生活」とは
3	看護ケアとは— 看護の感性、看護の質保証
4	保健統計からみる健康や看護
5	看護理論家の考え— ナイチンゲール
6	看護理論家の考え— ヘンダーソン
7	看護の歴史
8	看護における倫理
9	看護者の倫理綱領について理解する
10	法律に基づいた看護実践 保健師助産師看護師法の概要
11	看護サービスの提供の場と仕組み
12	他職種の役割と機能を知り、連携の必要性について理解する
13	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと（グループワーク）
14	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと（3 校合同討議）
15	「看護」について考える テーマ:看護であること看護でないこと（3 校合同討議）／ 終了試験
授業方法	講義、グループワーク 討議 （3 校合同）
評価方法	筆記試験（90%）課題レポート（10%）
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1]看護学概論 現代社：フローレンス・ナイチンゲール 看護覚え書 日本看護協会出版社：ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの ＜参考図書＞ 医学芸術社：実践に生かす看護理論 19 一般財団法人 厚生労働統計協会：国民衛生の動向・厚生の指標
備考	

科目区分	専門分野	授業科目	共通基本技術 （看護過程の基礎）
講師名	前田　こずえ	開講年次	1 年次　第 2 学期
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	実務経験	有　病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	看護援助の方法論である看護過程について学びます。ゴードンの機能的パターンを用いて対象者の多様な情報（生活者としての側面、生物学的に共通する側面から）収集し看護の視点から統合して対象者の望み（意志）を共有しながらアセスメントする方法を学びます。		

目的：対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する
目標：1．看護過程の構成要素について説明できる
　　2．看護上の問題を明確にする過程が説明できる
　　3．個別性のある看護計画の立案方法が説明できる
　　4．看護過程の評価の視点が説明できる
　　5．看護記録について説明できる

回	授　業　内　容
1	1．看護過程とは 1）看護過程とは 2）看護過程の構成要素
2	2．看護過程の展開 1）情報収集 （1）情報の種類、情報源、情報収集の方法 2）アセスメントの枠組みと視点 3）情報の整理・解釈・分析
3	2．看護過程の展開 4）事例を用いたアセスメントの実際 脳梗塞後、左片麻痺のある患者＜50 代男性・回復期＞ （1）情報収集 （2）情報の捉え方、振り分け （3）情報の解釈・分析
4	
5	
6	
7	3．関連図とは 1）関連図の必要性　2）関連図の作成の方法 3）情報・問題の統合　4）事例を用いた関連図の作成
8	4．問題の明確化 1）看護問題の種類 2）看護診断
9	4．問題の明確化 3）共同問題 4）事例の看護問題の明確化
10	5．看護上の問題の優先度 1）優先度の決定 2）問題リスト 3）事例の看護問題と優先度
11	6．計画立案とは 1）目標（期待される結果） 2）計画 （1）観察計画 （2）ケア計画 （3）教育計画 3）事例の看護計画
12	7．実施・評価 1）実施 （1）仮説の検証・準備性 （2）看護計画と毎日の看護計画の関係
13	2）評価 （1）目標達成の判定

	（2）看護問題、看護計画の追加・修正 （3）事例の記録の実際
14 15（45 分）	8. 看護記録 1）看護記録の意義と目的 2）看護記録の法的位置づけ 3）看護記録の構成 （1）基礎情報 （2）看護計画 （3）経過記録 （4）看護サマリー 4）看護記録の種類 （1）SOAP 法 （2）フォーカスチャーティング 5）看護記録及び診療情報の取り扱い
16	終了試験 45 分
授業方法	講義、グループワーク
評価方法	筆記試験 30 点、課題レポート 70 点
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ 医学書院：NANDA－Ⅰ看護診断定義と分類 ＜参考図書＞ ヌーベルヒロカワ：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第 6 版 学研メディカル秀潤社：看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社：疾患別看護過程の展開
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、事例に関連した「疾病と治療」及び「成人援助論」

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅰ （コミュニケーション、環境調整、感染防止、活動・休息）
講師名	岡本　諭	開講年次	1 年次　第 1 学期
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	実務経験	有　病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	看護の基本的な技術を学びます。技術の修得には、知識の定着とともに反復練習が必要になります。自己学習時間を活用した練習を期待しています。		

目的：対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を習得する
目標：1．看護技術の概念について知る
2．看護の対象に対する、安全と安楽を確保する技術が実施できる
3．看護技術を行う基礎となるコミュニケーション方法を学ぶ
4．環境調整の意義が説明できる
5．環境調整の援助技術が実施できる
6．活動・休息・睡眠の意義が説明できる
7．活動の援助技術が実施できる

回	授　業　内　容
1【講義】	1．技術の概念（安全、安楽、自立） 1）看護技術とは 2）看護技術の特徴 3）看護技術を適切に実践するための要素 2．看護技術の提供と倫理的配慮
2【講義】	3．コミュニケーション 1）コミュニケーションとは 2）コミュニケーションの基本原理と構成要素 3）コミュニケーションの種類 （1）言語的コミュニケーション （2）非言語的コミュニケーション 4）関係構築のためのコミュニケーション 5）効果的なコミュニケーション （1）傾聴　（2）情報収集　（3）説明・指導 6）コミュニケーションに必要な能力・態度
3【講義】	4．感染予防の技術 1）感染防止の基礎知識 （1）感染成立の条件、院内感染の防止 （2）感染拡大防止の対応 2）スタンダードプリコーション （1）手指衛生　（2）個人防護用具　（3）患者ケアに使用した器具 （4）環境対策　（5）リネン　（6）鋭利なものの取り扱い （7）救急時の対応　（8）患者配置　（9）呼吸器衛生／咳エチケット 3）感染経路別予防策 （1）基礎知識　（2）接触・飛沫・空気予防策 4）感染性廃棄物の取り扱い感染とその予防の基礎知識
4【演習】	標準予防策（スタンダードプリコーション）の実際　＜演習＞ ・手指衛生　・個人防護用具の着脱
5【講義】	5．環境調整技術 1）人間と環境 2）病室の環境のアセスメントと調整 （1）病室・病床の選択　（2）温度・湿度　（3）光と音　（4）色彩 （5）空気の清浄化とにおい　（6）人的環境 6．療養環境について考える―快適な環境とは― 1）ベッド周囲の環境整備 （1）環境整備の目的 （2）環境整備に必要な物品、環境整備の方法 2）療養環境の環境測定
6【講義】	7．活動援助技術

	1)基本的活動の基礎知識 (1)よい姿勢　(2)日常生活動作　(3)ボディメカニクス 2)体位・保持 (1)基本体位　(2)特殊体位 3)体位変換　　援助の基礎知識、援助の実際
7【講義】	8. 病床を整えるための知識 1)マットレス・枕・リネンの条件　2)ベッドメーキング 9. 環境調整技術 1)病床環境を整える技術 2)病床を整える技術 (1)ベッドメーキング (2)リネン交換、リネンの取り扱い・方法
8【演習】	一人でのベッドメーキング
9【演習】	一人でのベッドメーキング　＜演習＞
10・11 【演習】	臥床患者のリネン交換 左右への体位変換・安楽物品を用いた体位保持を含む
12 【技術試験】 (45 分)	臥床患者のリネン交換　＜技術試験＞ ・臥床患者のリネン交換 ・仰臥位から左右側臥位への体位変換 ・安楽物品を用いた安楽な体位の調整 ・快適な療養環境整備 ・安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)
13【講義】	10. 活動援助技術 1)移動 (1)援助の基礎知識と実際 2)移乗・移送 (1)車椅子を用いる場合 (2)ストレッチャーを用いる場合
14・15 【演習】	車椅子移乗・移送　＜技術習得度確認＞ ストレッチャーへの移乗、ストレッチャー移送　＜演習＞
【筆記試験】 (45 分)	修了試験(45 分)
授業方法	講義、演習
評価方法	技術試験(50%)筆記試験(50%)
テキスト	医学書院:系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院:系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 参考図書 学研:看護技術プラクティス 医学書院:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
備考	既習関連科目:人間関係論、微生物学講義、基礎看護学概論

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅱ （フィジカルアセスメント）
講師名	道中　俊成	開講年次	1 年次　第 1 学期
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	実務経験	有　病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	看護を実践するためには、対象となる人の観察とアセスメントが重要になります。この授業では、対象となる人の身体を外側から測定する方法とその原理を身につけていきます。また、測定するときの配慮についても考え実践に活かしてほしいと思っています。		

目的：対象に必要な観察を行うための知識と観察技術を習得する。

目標：1．主要な症状から病態のメカニズムを理解し、必要な情報収集と観察項目を導き出す思考過程を養う。

2．看護における観察の意義を理解し、五感を活用した問診・視診・触診・打診・聴診の知識と技術を習得できる。

回	授　業　内　容
1【講義】	1．フィジカルアセスメントの意義 1）ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2）健康歴とセルフケア能力のアセスメント
2【講義】	2．フィジカルアセスメントに必要な技術 1）視診　2）触診　3）打診　4）聴診　5）全体の概観
3【講義】	3．バイタルサインの観察とアセスメント 1）体温　2）脈拍　3）呼吸　4）血圧　5）意識 6）計測の技術　7）生理的変動因子
4【演習】	バイタルサイン測定の実際 ・身体測定　＜演習＞ ・体温測定 ・脈拍測定 ・呼吸測定 ・血圧測定
5【演習】	臥床患者のバイタルサイン測定　＜技術習得度確認＞
6 【講義・演習】	4．呼吸器系のフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2）フィジカルアセスメントの実際 （1）自覚症状と他覚症状・徴候 （2）胸郭の動き （3）呼吸音の聴取 （4）胸部の打診
7 【講義・演習】	5．循環器系のフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2）フィジカルアセスメントの実際 （1）自覚症状　（2）他覚症状の視診　（3）頸静脈の視診と頸静脈圧の測定 （4）胸部の打診　（5）触診　（6）心音の聴診
8【演習】	胸部（呼吸器系・循環器系）のフィジカルアセスメント ・呼吸音聴取、心音聴取　＜演習＞
9 【講義・演習】	6．腹部のフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2）フィジカルアセスメントの実際 （1）自覚症状　（2）他覚症状の視診　（3）腸蠕動音、血管雑音の聴診 （4）打診　　（5）触診 ・腸蠕動音聴取、腹囲測定　＜演習＞
10【講義】	7．筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識 2）フィジカルアセスメントの実際 （1）自覚症状　（2）関節可動域の観察　（3）徒手筋力テスト（MMT）
11【講義】	8．脳・神経系のフィジカルアセスメント 1）フィジカルアセスメントの目的、基礎知識

	2)フィジカルアセスメントの実際 （1）自覚症状 （2）運動機能の評価 （3）感覚機能の評価
12【演習】	【演習】筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント ・意識レベルの評価、関節可動域訓練、徒手筋力テスト
13・14 【演習】	【演習】看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感、動悸）を訴える患者のフィジカルアセスメント ＜技術試験＞ 体温測定、脈拍測定、呼吸測定、血圧測定、呼吸音聴取、心音聴取、SpO2 測定
15 【技術試験】 （45 分）	看護ケアにつなげるフィジカルアセスメント（系統別フィジカルアセスメントの統合） 発熱、呼吸器症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難感、動悸）を訴える患者のフィジカルアセスメント ・問診 ・バイタルサイン測定（体温測定、脈拍測定、呼吸測定、血圧測定） ・呼吸器系のフィジカルアセスメント（呼吸音聴取） ・循環器系のフィジカルアセスメント（心音聴取） ・得た情報の統合、報告
15 【筆記試験】 （45 分）	終了試験（45 分）
授業方法	講義、視聴覚教材（DVD、動画）視聴、演示、学生同士の演習
評価方法	技術試験（50%）筆記試験（50%）
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ ＜参考図書＞ 医学書院：フィジカルアセスメントガイドブック メヂカルフレンド社：はじめてのフィジカルアセスメント メディックメディア：看護が見える　フィジカルアセスメント
備考	

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅲ （清潔）
講師名	尾川　ひとみ	開講年次	1 年次　第 1 学期
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	実務経験	有　病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	看護師は、疾病・障害などなんらかの理由によって普段どおりの清潔行為や衣生活の維持が困難になった患者に、その人に適した方法を考え清潔の援助を行います。病態を考慮し、その人に即した方法を考えられるようになるために、援助の基本を学びましょう。		

目的：日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解し、病気に罹患し療養している対象への清潔の援助方法についての知識・技術・態度を習得する

目標：1．日常生活における身体の清潔、衣生活の意義について理解できる

2．皮膚粘膜に関する解剖生理学的知識を活用しながら、対象の身体を清潔にする方法の原理原則に関する知識を習得することができる

3．病気で療養している対象の身体の清潔並びに衣服の着脱の援助方法の技術と態度を習得できる

回	授　業　内　容
1【講義】	1．清潔・衣生活の意義 皮膚の構造と機能
2【講義】	2．清潔援助の方法と選択 1）身体への影響 2）手浴・足浴・入浴介助・シャワー浴介助
3・4 【演習】	手浴・足浴（学生同士での演習）　＜演習＞ ・ベッド上仰臥位の患者への手浴・足浴 ・端坐位保持が可能な患者への手浴・足浴
5【講義】	3）身体各部分の清潔 整容(洗面、目・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り) 口腔ケア(歯磨き・義歯のケア) 洗髪（ドライシャンプー・ベッド上・洗髪車・洗髪台）
6・7 【演習】	身体各部分の清潔(学生同士での演習)　＜演習＞ ・口腔ケア、整容・髭剃り・爪切り ・洗髪(ベッド上、洗髪台もしくは洗髪車を使用) ・入浴介助、シャワー浴介助（モデル人形を用いた演習）
8【講義】	4）全身の保清 寝衣交換(点滴ドレーン等留置のある患者の寝衣交換方法含む) 全身清拭・陰部の保清(陰部洗浄)・おむつ交換
9・10・11 【演習】	点滴・ドレーン等の留置の無い患者の寝衣交換・全身清拭（学生同士での演習）
12・13 【演習】	陰部の保清・おむつ交換（陰部モデルを使用しての演習）　＜演習＞
14【演習】	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）を対象とした清潔援助

	・全身清拭、陰部洗浄、おむつ交換、寝衣交換の一連の流れを通して実施
15 【技術試験】 （45 分）	臥床姿勢の患者（点滴・ドレーン等の留置のない）を対象とした清潔援助 ・全身清拭、陰部洗浄（排泄なし）、おむつ交換、寝衣交換
15 【筆記試験】 （45 分）	終了試験（45 分）
授業方法	講義・演習
評価方法	技術試験（50%）筆記試験（50%）
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 参考図書 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
備考	

科目区分	専門分野	授業科目	生活援助技術Ⅳ （食事・排泄）
講師名	小林　真弓	開講年次	1 年次　第 1 学期
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	実務経験	有　病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	食べて排泄することは、生命維持のため不可欠であるとともに誰もが営む日常的な行為です。なんらかの原因により食行動や排泄行動が自力できなくなった患者の力を最大限に引き出す援助ができるように、アセスメントの視点と援助の実際を学びましょう。		

目的：食事、排泄の意義について理解し対象への援助方法を習得する
目標：1. 食生活及び排泄への援助の意義を理解できる
2. 食事の援助技術を習得できる
3. 排泄の援助技術を習得できる

回	授　業　内　容
1【講義】	1. 食事援助技術 1）食事援助の基礎知識 （1） 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ①栄養状態　②摂食・嚥下能力　③摂食行動
2【講義】	1. 食事援助技術 1）食事援助の基礎知識 （2） 医療施設で提供される食事の種類と形態 2）食事摂取の介助 （1） 援助の基礎知識 （2） 援助の実際（嚥下障害のない患者）
3【演習】	食事介助（嚥下障害のない患者）の方法（環境調整・セッティングを含む）＜演習＞
4 【講義・演習】	3）非経口的栄養摂取の援助 （1） 経管栄養法 （2） 中心静脈栄養法 経管栄養法（モデルを用いた経鼻カテーテル挿入・経管栄養注入・経鼻カテーテル管理）
5・6 【演習】	経管栄養法　＜習得度確認＞ ・モデルを用いた経鼻カテーテル挿入 ・経鼻カテーテルの固定 ・経管栄養注入（胃泡音の確認）
7【講義】	2. 排泄援助技術 1）自然排尿および自然排便の基礎知識 （1）排泄の意義
	2. 排泄援助技術 1）自然排尿および自然排便の基礎知識 （2）排泄器官の機能と排泄のメカニズム （3）患者の状態に応じた援助を決定するためのアセスメント
8【講義】	2）自然排尿および自然排便の介助の実際 （1）トイレにおける排泄介助 （2）床上排泄援助 （3）おむつによる排泄援助 （4）陰部の清潔（陰部洗浄）
9【演習】	ポータブルトイレへの移乗 尿器・便器を用いた排泄援助　＜演習＞
10【講義】	3）導尿 （1）一時的導尿 （2）持続的導尿
11・12 【演習】	一時的導尿 持続的導尿　＜演習＞

13【講義】	4）排便を促す援助 （1）排便を促す援助の基礎知識 （2）浣腸（グリセリン浣腸） （3）摘便
14【演習】	浣腸、摘便　＜演習＞
15	終了試験（食事 45 分、排泄 45 分）
授業方法	講義、演習、デモンストレーション
評価方法	技術習得度確認（20%）筆記試験（80%）
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ ＜参考図書＞ 学研：看護技術プラクティス 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ講義　演習

科目区分	専門分野	授業科目	診療の補助技術
講師名	畑中　美保	開講年次	1 年次　第 2 学期
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	実務経験	有　病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	限られた演習の時間を大切に活用するために、事前に手順等をしっかり読み込んでおいてください。安全な物品の取り扱いに留意し、実際の患者に行う思いで技術の習得を行っていきましょう。		

目的：看護実践の基礎となる診療援助技術を習得する
目標：１．薬物療法の意義・目的が理解できる
２．薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法が習得できる
３．安全に与薬を行うシステムのあり方について理解できる

回	授　業　内　容
1【講義】	1．薬物療法の意義 2．薬物療法の基礎的知識 1）薬に関連した法令 2）薬物の種類 3）薬剤の吸収・排泄のメカニズム （1）吸収　（2）分布　（3）代謝　（4）排泄 4）薬理作用とその影響因子 （1）主作用・副作用　（2）薬理作用に影響を及ぼす要因
2【講義】	3．薬物療法における看護の役割 1）薬物療法における看護師と多職種との関連 2）薬物療法における看護師の役割 4．薬物療法における安全確保の技術 1）誤薬防止の基礎知識と実際 2）医療廃棄物の取り扱い 3）薬剤の管理（毒薬、劇薬、麻薬）
3【講義】	4．薬物療法における安全確保の技術 4）抗がん剤の人体への影響とその効果 5）抗がん剤の安全な取り扱い 薬剤の管理方法、ばく露予防策について 6）化学療法投与時の看護と有害反応への対処 （1）血管外漏出の予防と対処 （2）過敏症の早期発見と対応 （3）有害反応へのセルフケア支援
4【講義・演習】	5．薬物療法における援助過程と与薬の技術 1）経口的与薬法（固形剤、粉末剤、液状剤） 2）口腔内与薬法（舌下錠、バッカル錠、トローチ） 演習：経口的与薬法、口腔内与薬法＜演習＞
5【講義・演習】	5．薬物療法における援助過程と与薬の技術 3）直腸内与薬法（全身作用、局所作用） 4）点鼻・点耳・点眼法・経皮的与薬法 演習：経皮・外用薬の投与＜演習＞
6【講義】	5．薬物療法における援助過程と与薬の技術 5）注射法

	注射薬の種類、注射実施上の事故防止と責任 （1）注射の準備 （2）注射の方法　①皮下・皮内注射　②筋肉内注射
7・8 【演習】	注射法（注射訓練モデルを用いた演習）　＜演習＞ ・皮下注射 ・筋肉内注射
9【講義】	5．薬物療法における援助過程と与薬の技術 5）注射法 （2）注射の方法　③静脈内注射　④点滴静脈内注射　⑤中心静脈カテーテル法
10【講義】	点滴静脈内注射の基礎 点滴静脈内注射の手順と留意点
11・12・13 【演習】	点滴静脈内注射　　＜演習＞ ・薬剤の準備（アンプルからの吸い上げ、溶解薬剤のバイアルからの吸い上げ） ・翼状針を用いた点滴静脈内注射 ・点滴静脈内注射の管理
14【講義】	6.輸血療法時の看護 1）輸血とは　2）輸血療法の適応　3)血液型と交差適合試験　4）輸血による副作用 5）輸血時の観察と看護　6）血液製剤の保管と管理
15	まとめ・終了試験（45 分）
授業方法	講義、演習、デモンストレーション
評価方法	筆記試験 100 点満点
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ ＜参考図書＞ 臨床看護技術パーフェクトナビ 学研：看護技術プラクティス
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、薬理学（総論）

科目区分	専門分野	授業科目	臨床看護総論Ⅰ（主要症状に必要な治療・処置を含む）
講師名	小林　真弓	開講年次	1 年次　第 2 学期
単位数（時間）	1 単位（　30 時間）	実務経験	有　病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	症状の起こるメカニズムを振り返りながら症状に対する看護を話しあっていきます。 基本的な根拠に基づく看護手順、技術提供前後の観察、判断事項を学び、心理面への配慮についても学び、対象一人一人に応じた看護援助が行えるようになって欲しいと思っています。		

目的：健康障害を持つ対象を理解し、対象のおかれている状態に応じた看護の役割と援助の方法について基礎的な能力を養う。

目標：1．主要症状別看護に必要な解剖生理学や病理学で学んだ知識を統合し、根拠を踏まえ看護を理解する。

2．主要症状が身体的側面だけでなく、精神・社会的側面に影響があることを理解する。

回	授　業　内　容
1【講義】	1．安楽に関連する症状を示す対象者への看護 1）発熱・低体温などの体温調整機能に関する症状を示す対象の看護
2【講義】	2）痛み症状を示す対象の看護 痛みのメカニズム、痛みのアセスメント、痛みのある患者の援助
3【講義】	3）不眠症状を示す対象の看護 睡眠のメカニズム、睡眠障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム 身体ケアを通じてもたらされる安楽：体位保持（ポジショニング）、リラクゼーション法
4【演習】	安楽に関連する症状（体温調節・疼痛）への援助 罨法の技術（冷罨法・温罨法）＜演習＞
5【講義】	2．循環に関連する症状を示す対象者への看護 循環障害に関連する症状のメカニズム 循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 血液循環を促進する援助・末梢循環促進ケア、心臓の負荷を軽減する援助
6【講義】	3．呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助（排痰ケア、吸入）
7【講義】	呼吸機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助（酸素療法）
8【演習】	酸素療法を受ける患者の看護　＜演習＞ 中央配管方式による方法と酸素ボンベによる方法 酸素投与器具とその特徴（鼻カニューレ、簡易酸素マスク、ベンチュリ―マスク、リザーバーバック付き高濃度酸素マスク）
9・10 【演習】	呼吸に関連する症状への援助（排痰ケア） 体位ドレナージ　＜演習＞

	咳嗽介助（徒手的咳嗽介助）・ハフィング 吸入加湿法（ネブライザー） ＜演習＞
11【講義】	口腔・鼻腔内吸引法
12・13 【演習】	口腔・鼻腔内吸引法
14【講義】	気管内吸引法
15 【技術試験】 （45 分）	口腔・鼻腔内吸引
15 【筆記試験】 （45 分）	終了試験（45 分）
授業方法	講義・演習
評価方法	技術試験（50%）筆記試験（50%）
テキスト	医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ ＜参考図書＞ 学研ﾒﾃﾞｨｶﾙ秀潤社：看護過程に沿った対症看護 医学書院：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術
備考	

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学概論
講師名	平田　洋子(15)	開講年次	2 年次　第 1 学期
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	実務経験	有　病院での勤務
授業概要 ＊講師からのメッセージ	少子高齢社会にある現在の子どもとその家族への看護に必要な知識と考え方の基礎について、演習を踏まえて学んでいきます。		

目的：小児看護学の概念と対象について理解し、小児看護の目的と役割について総合的に理解する

小児保健の意義と看護の役割について理解する

目標：1. 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的、課題を理解できる

2. 小児の特徴を理解できる

3. 小児を取り巻く環境を理解できる

4. 小児保健統計をふまえ、小児を保護する法律や保健対策を理解できる

回	授　業　内　容
1	1. 小児看護の特徴と理念 1）小児とは　　5）小児の特徴 2）小児期の範囲　　6）小児看護の対象 3）小児期の区分　　7）小児看護の変遷と課題 4）成長・発達の概念
2～5	2. 小児の成長・発達 1）小児の成長・発達 ①成長・発達の特徴　②成長・発達に影響する因子　③成長・発達の評価 2）小児期の心理・社会的発達
6	3. 小児と医療 1）小児と疾病構造の変化、医療との協働 2）継続看護(在宅・外来)、多職種との調整
7～8 【演習】	4. 小児における倫理（グループ発表） 1）GW
8回終了後	1 時間（45 分）：終了試験
9～10	5. 小児各期の健康増進・栄養の特徴 1）小児各期の成長・発達の特徴と生活支援 ①新生児期・乳児期・幼児期の成長・発達・栄養の特徴と生活支援 ②学童期・思春期の成長・発達・栄養の特徴と生活支援
11	6. 小児と遊び、事故防止について
12	7. 小児と公衆衛生 1）小児に関する保健統計
13～14	8. 小児を守るための施策 1）小児を保護する法律と保健施策 ①予防接種法　②児童福祉法　③児童の権利に関する条約

	④母子保健法 ⑤学校保健安全法 ⑥児童虐待防止法 ⑦健やか親子 21
15 回終了後	1 時間(45 分):終了試験
授業方法	講義・グループワーク・演習・レポート (3 校合同)
評価方法	概論:筆記試験 90%、レポート 10% 保健:筆記試験 100% 概論+保健÷2 概論の試験は 8 回目が終了して実施 保健は 15 回目で実施
テキスト	医学書院:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論、小児臨床看護総論 (財)厚生統計協会 国民衛生の動向
備考	既習関連科目:成人看護学概論